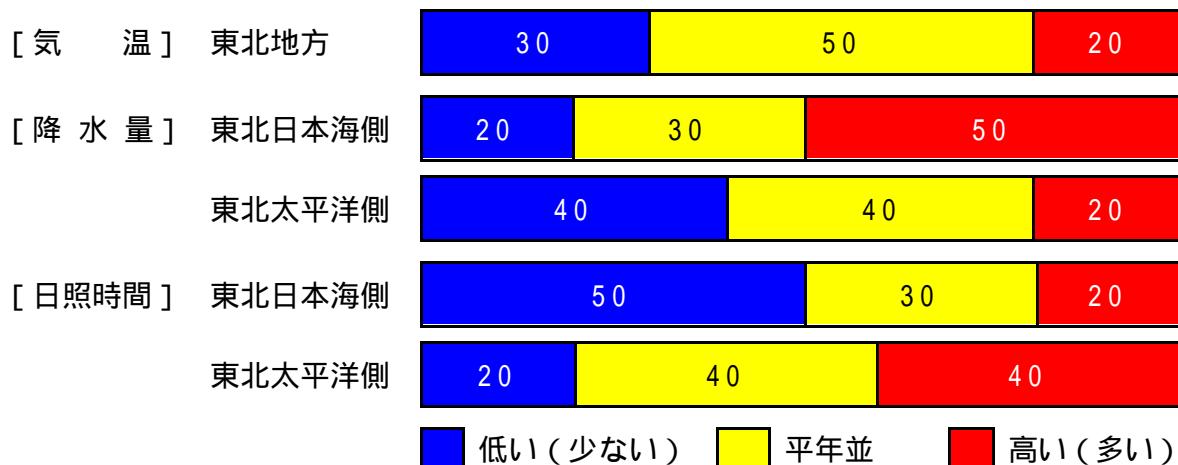


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:2月24日~3月23日)

平成13年2月23日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。

東北日本海側では曇りで雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

向こう28日間の晴れ日数：東北日本海側約11日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (2月24日～3月2日) 気圧の谷が明日(24日)と期間の後半に通り、天気の崩れるところがあるでしょう。その他の日は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪や雨の降る日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日

2週目…………… (3月3日～3月9日) 天気は周期的に変化し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は曇りで雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

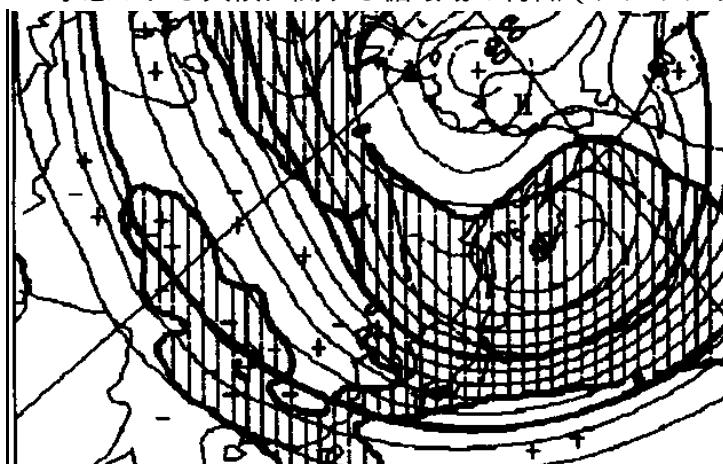
平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約5日

3～4週目…………… (3月10日～3月23日) 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では曇りで雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約6日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

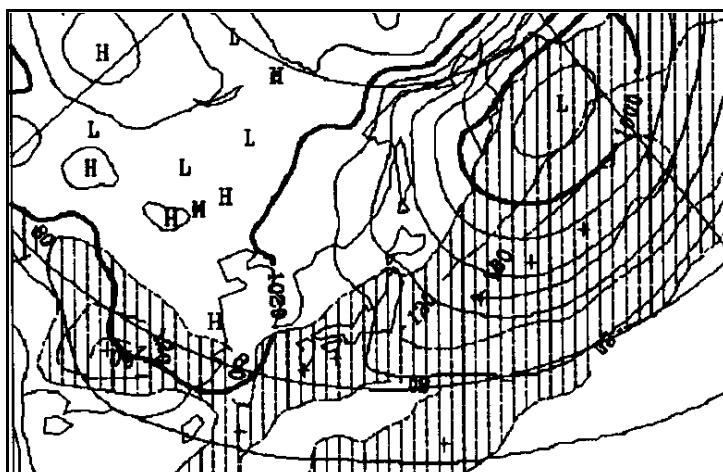


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極付近正偏差で、日本付近はカムチャツカ半島の南に中心をもつ負偏差に広く覆われる。

週別（図略）では、2週目に日本付近広く負偏差に覆われるが、負偏差の中心は西日本以南。また、1週目、3~4週目は北日本が負偏差に覆われるが、強いものではない。

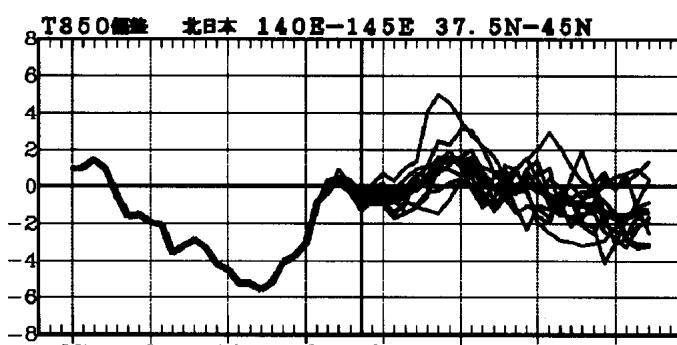


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧、ベーリング海では低気圧が発達して、北日本は冬型の気圧配置となっている。日本付近は東西に延びる弱い降水域に覆われる。

週別（図略）では、1週目は月別とほぼ同じ。2週目は、冬型の気圧配置が緩み気圧の谷の影響を受けやすい。ただし、降水域は東北地方にはからない。3~4週目は再び冬型の気圧配置となり、低気圧の通過に伴う降水域が日本付近を覆う。



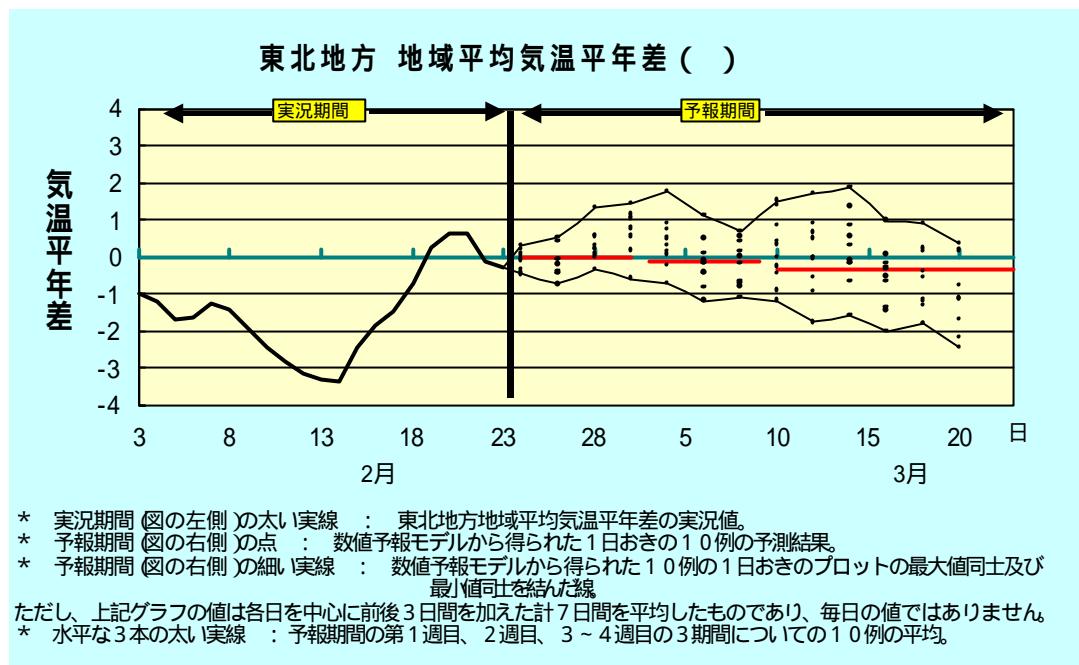
北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
(縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付)
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー (細線) の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、3週目以降は下降する傾向があるが、期間を通して概ね平年並。1週目後半から2週目前半にかけては高めを予想するメンバーもある。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

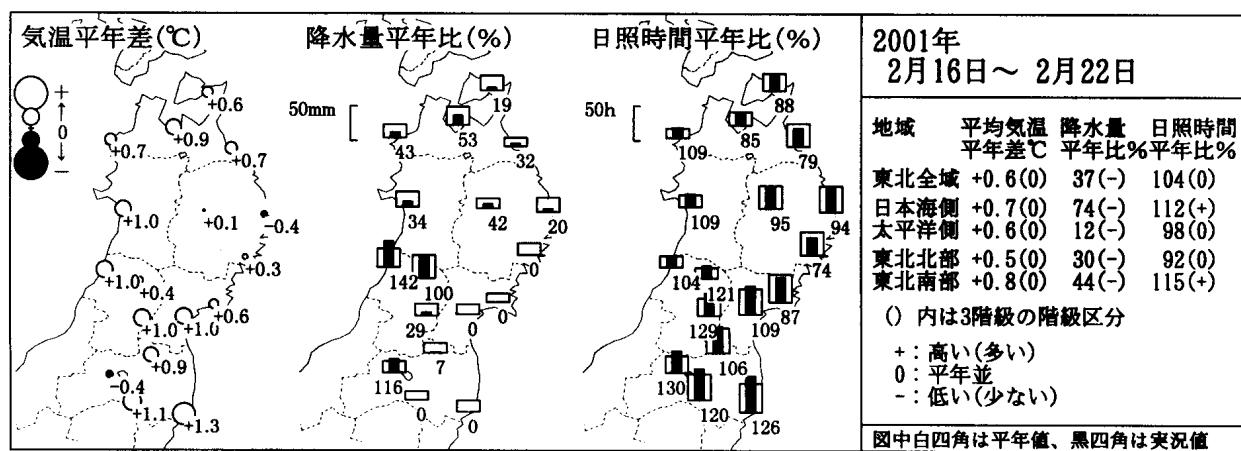
週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「平年並」、3~4週目「平年並」を予測している。1週目は週間資料からも「平年並」とする。なお、アンサンブルメンバーのばらつきは小さく信頼度は大きい。



4. 最近1週間(2月16日~2月22日)の天候の経過

東北地方は、期間の前半は冬型の気圧配置となり、後半は低気圧と高気圧が交互に通過して天気は周期的に変化した。特に22日は移動性高気圧に覆われ、晴れて気温が上がった。

平均気温は、東北地方で平年差+0.6と平年並。降水量は、東北日本海側で平年比74%、東北太平洋側で平年比12%とともに少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比112%と多く、東北太平洋側で平年比98%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)